

宮本理央

若者の政治参加はなぜ少ないのか

—都議会議員選挙の参与観察から—

要旨

本研究は参与観察法を用いて、なぜ若者の政治参加が少ないのか、若者が政治と触れ合う機会を設ければ若者の政治的参加が増加するのではないかという仮説を検証するものである。併せて複数人にインタビューも行い、政治参加に深く関わることで政治の印象や問題点についてどう感じるかの聞き取り調査も行った。

参与観察としては、2025年6月22日に行われた東京都議会議員選挙の板橋選挙区から当選した都民ファーストの会所属の中山詩都都議会議員選挙の候補者の選挙運動ボランティアを行うことで参与観察を行った。

検討において、参与観察法からは若者の政治参加が少ない原因は若者が政治と触れ合う機会がないだけではないことがわかった。インタビューでは、政治参加に深く関わることで、政治が身近に感じるようになった、政治や選挙が抱える問題点が見えるようになったという回答傾向が見られた。

この結果から若者が政治と触れ合う機会を設ければ若者の政治的参加が増加するのではないかという仮説は立証することはできなかった。しかし、筆者の観察やインタビューから、現実の政治に触れる機会を持った場合、政治へのよくないイメージが変化し、政治への前向きな姿勢を持てるようになることが確認された。